

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	長崎純心大学
設置者名	学校法人純心女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文学部	文化コミュニケーション学科	夜・通信	17			17		
	地域包括支援学科	夜・通信		4		21		
	こども教育保育学科	夜・通信				21		
	比較文化学科	夜・通信						
	人間心理学科	夜・通信						
(備考) 平成30年度より比較文化学科・人間心理学科は学生募集を停止した。 この2学科については、在籍者が数名いる。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.n-junshin.ac.jp/univ/wp-content/uploads/2023/06/curriculum_practical_2023.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	長崎純心大学
設置者名	学校法人 純心女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.n-junshin.ac.jp/outline/board/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	カトリック長崎大司教 区教区長	令 4.4.1～ 令 7.3.31	カトリックミッシ ョンスクールの使 命に基づいた教育 に関する意見の聴 取
非常勤	地方独立行政法人理事長 前国立大学長	令 3.5.9～ 令 7.5.8	教育研究・学校経営 に関する意見の聴 取
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	長崎純心大学
設置者名	学校法人 純心女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス作成ガイドラインを全教員に配付する。教員は、統一の様式に従い、シラバスに掲載される項目を Web 入力する。3月のオリエンテーションから始講までにオンラインで公表される。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://pl.njunshin.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学習成果について厳格かつ適正に評価し、単位を付与するとともに履修認定をするために、学期末試験に関する内規及び「長崎純心大学における成績評定平均値 (Grade Point Average) に関する規程」を定め、手続きを明示し、可視化している。また、単位認定されるための要件 (出席等) については、キャンパスガイドに記載し、成績評価の方法と基準についてはシラバスに明示している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>「長崎純心大学における成績評定平均値 (Grade Point Average) に関する規程」を定め、運用するとともに、下記式によりG P Aを算出する旨をキャンパスガイド及び本学ウェブサイトに記載し、公表周知している。</p> $\frac{(4.0 \times A^+ \text{を得た科目の合計単位数}) + (3.0 \times A \text{を得た科目の合計単位数}) + (2.0 \times B \text{を得た科目の合計単位数}) + (1.0 \times C \text{を得た科目の合計単位数})}{\text{履修登録した (不合格だった科目を含む) の総単位数}}$	
客観的な指標の算出方法の公表方法	『Campus Guide 2023』(学生必携) https://www.n-junshin.ac.jp/univ/campus_life/completion/graduate/
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業要件単位及び必修科目の全単位を修得し、修業年限以上在学した者を対象とする教授会における卒業判定の厳格な審査を経て、学長が適正に卒業を認定する。教育課程は、ディプロマ・ポリシー実現のために策定されたカリキュラム・ポリシーに基づき編成されており、卒業認定者は、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) に求められている学生像と合致している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	『Campus Guide 2023』(学生必携) https://www.n-junshin.ac.jp/univ/campus_life/completion/graduate/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	長崎純心大学
設置者名	学校法人 純心女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.n-junshin.ac.jp/official/disclosure/plan/
収支計算書又は損益計算書	https://www.n-junshin.ac.jp/official/disclosure/plan/
財産目録	https://www.n-junshin.ac.jp/official/disclosure/plan/
事業報告書	https://www.n-junshin.ac.jp/official/disclosure/plan/
監事による監査報告(書)	https://www.n-junshin.ac.jp/official/disclosure/plan/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/endeavor/self/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/disclosure/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/principle/purpose/)
(概要) 本学は、学則第 2 条に定める目的及び使命を全うするため、時代の変化に敵う地球時代のヒューマニズムの構築を目指し、建学の精神たるキリスト教ヒューマニズムに基づく人文教育研究（ヒューマニティーズ）を通して、それぞれに人材の養成を図る以下の 3 学科からなる人文学部を設ける。 (文化コミュニケーション学科) 本学科は、学生一人ひとりが人間という存在と文化の本質の理解を目指し、専門的見地に立って、時代、地域、民族などによって異なる多様な文化を探究すると共に、その成果を伝達し共有する言語コミュニケーション能力・ICT スキルの向上を目指す。同時にその多様な文化の基礎となる人間の普遍性を探究することで、異なる文化間の相互理解に貢献できる人材の養成を目的とする。 (地域包括支援学科) 本学科は、現代社会を取り巻く諸問題に広く関心を持ち、かつ、その問題に立ち向かう勇気と行動力を持ち、生活の主体者である人間を中心に据えて、あふれる共感性、尽きることのない探究心をもった心の豊かな人間を育てる。また、人間の生命と生活を守るため、対人支援の専門職者として深い思考力と高い実践力をもつ人材の養成を目的とする。 (こども教育保育学科) 本学科は、豊かな人間性を持ち、保育、教育、福祉に関わる理論的・実践的学問を真摯に探究し、高度な専門的知識及び技能を兼ね備え、子どもをとりまく多種多様な環境の改善に力を尽くし、子どもと保護者を支援することのできる人材の養成を目的とする。 (比較文化学科) (平成 30 年度以降の学生募集停止) 本学科は、学生一人ひとりが人間という存在と文化の本質の理解を目指し、専門的見地に立って、時代、地域、民族などによって異なる多様な文化を比較、研究する。同時にその多様な文化の基礎となる人間の普遍性を探究することで、異なる文化間の相互理解に貢献できる人材の養成を目的とする。 (人間心理学科) (平成 30 年度以降の学生募集停止) 本学科は、生きた人間の心の現実に向き合うための心理学的「リサーチ能力」、「アセスメント能力」、「コミュニケーション能力」の開発を基本的な教育研究目標に据える。それらを基に心理的援助の実践家養成及び専門家（臨床心理士）養成の基礎づくりと社会全般における実践家養成を目指し、今日の複雑かつ多様化した社会において心理学の立場から貢献できる人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/principle/diploma_policy/)

(概要)

人文学部は、カトリシズムの精神に基づき、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育と、各学科における高度な専門教育を行い、所定の単位を修得し、次のような力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 明瞭な根拠に基づいて理論的に思考し、判断する力を有する。
2. 生涯にわたって、主体的に学び続ける力を有する。
3. 自らの考えを表現するとともに、他者との意思疎通を図ることのできる言語能力を有する。
4. 自らの教養と専門性に基づいて、他者と協調して社会に貢献することのできる力を有する。

(文化コミュニケーション学科)

本学科は文化の持つ多様な視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって世界と地域社会の問題と向き合い、文化的背景を異にする他者と協働できる人材の養成を目的とし、次のような能力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 世界の文化の普遍性と多様性を理解するとともに、文化間の相互理解を助け、新しい文化の創造に貢献できる。
2. グローバル化する世界の中で必要とされる、複数言語（英語、ならびに中国語、韓国語、ドイツ語、スペイン語、手話のいずれか）でコミュニケーションすることができる。
3. コンピュータやインターネットなどの情報に関する実務的レベルの知識と、オフィスソフトやマルチメディアソフトの高度なスキルを習得し、あらゆる場面でそれらの能力を活用できる。

(地域包括支援学科)

地域包括支援学科は、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育に加え、福祉の専門的支援や人間の「心と行動」に関する課題解決に係る知識・技術・価値を身につけた、次のような学生に学位を授与する。

1. 人間の尊厳や人権と社会正義の原理に従って行動する力を有する。
2. Biopsychosocial(生物(医学)心理社会)モデルに基づいて人間を理解する力を有する。
3. 地域創生に貢献できる力を有するとともに、グローバルな視点から、国際社会に貢献できる力を有する。
4. 生活のしづらさを有する人々をはじめとするすべての人々の福祉や心の健康の保持増進に貢献できる力を有する。
5. 人間の「心と行動」や「人と環境の相互作用」に関する理解をはじめ、地域社会の多様性に対して開かれた態度をもち、かつ、それらの個別性と普遍性の双方を視野に入れた心理学的または社会科学的な理解ができる力を有する。
6. 人間の「心と行動」、地域社会や福祉に関する課題の解決に向けて、科学的な実験や調査などの適切な実践的方法論及び円滑な人間関係等を展開する力を有する。

7. 社会福祉士・公認心理師・介護福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得することのできる力を有する。

(こども教育保育学科)

本学科では、保育、教育、福祉に係る専門的知識・技能を備え、子どもの成長発達を促す指導・支援と子どもに係る種々の課題解決のために尽力する豊かな人間性をもった人材の養成を目的とする。そのため、基礎科目 32 単位、基幹科目 91 単位、応用科目 8 単位、計 131 単位を取得することで下記の力を身につけたと認められる学生に対し、学位を授与するものとする。

1. 何が善い保育であり、何が善い教育であるのか、理論的に思考し、判断することが十分にできる。
2. 人間と保育、教育、福祉に関する問題意識を生涯にわたって培い、理論的、実践的に自ら学び続けることが十分にできる。
3. 子どもや保護者、職場や地域社会の人々などと実地に交流するなかで自らの考えを適切に表現し、円滑に意思疎通することが十分にできる。
4. 学んだ知識と技能を生かし、子どもと保護者を支援することによって社会に貢献することが十分にできる。

(比較文化学科) (平成 30 年度以降の学生募集停止)

本学科は、比較文化の基本的な知識を身につけるとともに、専門教育の総仕上げとして行う卒業論文の執筆を通して、自己を十分に表現する能力を研鑽した人材の養成を目的として次のような能力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 時代、地域、民族などによって異なる、文化の多様性を理解できる。
2. 文化の多様性の基礎となる人間の普遍性を理解できる。
3. 異なる文化間の相互理解に貢献できる。

(人間心理学科) (平成 30 年度以降の学生募集停止)

本学科は、現代社会における人間の「心と行動」に関する課題の解決に向けた人材の養成を目的として、次のような能力をもつ学生に学位を授与する。

1. 課題の理解に際しては、人間の「心と行動」の多様性に対する開かれた態度をもち、かつ、その個別性と普遍性の双方を視野に入れた心理学的理解ができる。
2. 心理学的方法に基づいて必要なデータを適切に収集・分析し、かつ、課題解決のための立案ができる。

データの収集及び分析、課題解決の立案、そして、それに基づいた心理学的実践にあたっては、他者との協力関係を促進するための表現能力及び対人関係能力を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/principle/curriculum_policy/)

(概要)

人文学部では、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために4年間のカリキュラムを「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」の3つの科目群によって編成します。「基礎科目」は、人文学部の全学生に共通の科目群であり、思考力、判断力、表現力の基盤となる教養、外国語の運用力、情報処理能力並びに健康の基礎を身に付けるとともに、地域社会の具体的な課題把握と解決のために主体的に学ぶ力を習得します。授業は、講義

または演習形式で行います。

「基幹科目」は、各学科が目指す人材養成の目的を達成するために設けられた専門の科目群で、社会における自立のために必要な力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。

「応用科目」は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学生を知的かつ道徳的に理解し、応用する能力を習得します。授業は、人文学部の全学生が執筆する「卒業論文」の執筆につながる少人数のゼミナールである「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」で行います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/principle/admission_policy/)

(概要)

長崎純心大学は、キリスト教ヒューマニズムに基づき「知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する」を教育研究の指針としています。学力は、豊かな人間性がそなわって知恵となり、人と世界に役立つとき、真の力となるからです。この指針のもと、本学人文学部は、文化コミュニケーション学科、地域包括支援学科、こども教育保育学科によって構成されています。各分野において高い専門性を有し、人と世界に奉仕できる人間を育成することを使命とする長崎純心大学は、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、高等学校までに修得すべき基本的言語運用能力を身につけた以下のような入学生の受け入れを目指しています。

(文化コミュニケーション学科)

1. 私たちがこれまでに築いてきた歴史や文化、文学、芸術、思想などを、広々とした視野のもとにおき、自分の頭で考え自分の言葉で語り、よりよい社会を作ろうと願う人
2. 英語をはじめとする外国語、およびICTを活用した人間のコミュニケーションに関心を持ち、自分の視野を拓げ、異なる文化を生きる人々とともに、世界の諸問題に取り組もうと考える人
3. 文化理解とコミュニケーション能力を生かし、卒業後はビジネス、情報通信、教育、文化事業、社会貢献などの分野で、国内外において活躍したいと望む人

(地域包括支援学科)

1. 人権と社会正義を基盤に据え、地域創生に貢献するとともに、現代社会において年齢や障がいの有無にかかわらず、すべての人々の福祉や心の健康の保持増進に貢献しようとする人
2. 現代社会における人間の心と行動、そして日々の営みの中での生活のしづらさなどの社会福祉に関する課題への興味関心や問題意識があり、自ら主体的に、そして多様な人々とも協働して学ぼうとする態度と学習意欲を持つ人
3. 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、公認心理師の国家資格などの取得を目指すとともに、実習体験を通して実践力を高め、修得した専門知識と技能を生かして、様々な場面において地域社会に貢献する志を持つ人

(こども教育保育学科)

1. 保育、教育、福祉に関する問題意識を持ち、理論的、実践的に自ら学び続け、子どもに係わる種々の課題解決のために力を尽くそうとする人
2. 豊かなコミュニケーション力を持ち、さらに自らの感性と表現力を高めようとする意欲を持つ人
3. 学んだ知識と技能を生かし、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭などの子どもと関わる仕事に就き、社会に貢献しようとする人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/outline/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
人文学部	—	24人	20人	13人	3人	0人	60人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		108人					108人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
毎年3月に全教職員を対象にFD研修会を実施している。							
令和4年度実施内容							
日 時：2023年3月9日							
テーマ：本学における「教学マネジメント」と「特別な配慮を必要とする学生支援」のあり方を考える							
内 容：（午前の部）学部長による講演 「特別な配慮を必要とする学生支援室」及び「学事課」からの報告、問題提起 （午後の部）グループディスカッション							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	280人	261人	93.2%	1120人	1144人	102%	若干人	1人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	280人	261人	93.2%	1120人	1144人	102%	若干人	1人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	284人 (100%)	14人 (4.9%)	262人 (92.3%)	8人 (2.8%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) <進学先>長崎純心大学大学院 <就職先>十八親和銀行、長崎県教育委員会 (備考)					
c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	306人 (100%)	275人 (89.9%)	19人 (6.2%)	12人 (3.9%)	0人 (0.0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバス作成ガイドラインを全教員に配付する。教員は、統一の様式に従い、シラバスに掲載される項目をWeb入力する。3月のオリエンテーションから始講までにオンラインで公表される。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 卒業要件単位及び必修科目の全単位を修得し、修業年限以上在学した者を対象とする教授会における卒業判定の厳格な審査を経て、学長が適正に卒業を認定する。教育課程は、ディプロマ・ポリシー実現のために策定されたカリキュラム・ポリシーに基づき編成されており、卒業認定者は、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) に求められている学生像と合致している。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	文化コミュニケーション学科	132 単位	㊟・無	年間 48 単位
	地域包括支援学科	131 単位	㊟・無	年間 48 単位
	こども教育保育学科	131 単位	㊟・無	年間 48 単位
	比較文化学科	132 単位	㊟・無	年間 48 単位
	人間心理学科	130 単位	㊟・無	年間 48 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: https://www.n-junshin.ac.jp/univ/campus_life/campus-map/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人文学部	文化コミュニケーション学科	670,000 円	240,000 円	240,000 円	授業料：2 年次 690,000 円 3 年次 710,000 円 4 年次 730,000 円
	地域包括支援学科	670,000 円	240,000 円	240,000 円	授業料：2 年次 690,000 円 3 年次 710,000 円 4 年次 730,000 円
	こども教育保育学科	690,000 円	240,000 円	240,000 円	授業料：2 年次 710,000 円 3 年次 730,000 円 4 年次 750,000 円
	比較文化学科	－ 円	－ 円	－ 円	平成 30 年 4 月 学生募集停止
	人間心理学科	－ 円	－ 円	－ 円	平成 30 年 4 月 学生募集停止

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>すべての学生が安全で快適な学生生活が送れるようサポートする体制をとっている。全教員が「オフィスアワー」の時間を設け、授業の質問・相談に応じているほか、クラスアドバイザーが学生一人ひとりの相談に親身に応じている。</p> <p>配慮が必要な学生を支援する室を作り、配慮を希望する学生の求める配慮内容に対し、当該学生との面談を行い、配慮内容を協議し、全教職員に周知している。</p> <p>学生の進路希望調査の結果、インターンシップ実施が有益とされる場合、学生の主体性を第一に、企業と連携・企画、実施している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>キャリア支援のため、学事課にキャリア支援を設置している。学事課キャリア支援には、キャリアコーディネーター及びキャリアカウンセラーが常駐し、就職・進学相談など学生一人ひとりにきめ細やかなサポートを行っている。キャリアオリエンテーション（毎年 9 月・3 月開催）などを実施し、進路を考える機会を多く設けている。</p> <p>また、授業のほか教員採用試験対策講座や社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士などの国家試験対策講座も実施している。学内で実施している各種検定試験も希望者は、受検可能である。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>すべての学生が安全で快適に学生生活を送ることができるように相談や支援する組織を設けている。保健センター内に保健室・学生相談室を設置し、健康面だけでなく、友人関係、家族関係、学業や日常生活で困っていることなどの相談に応じている。また、さまざまなハラスメント防止の取り組みとして、人権デスクを設置し、メンバーの教員に相談できるようにしている。特別の配慮を必要とする学生支援室と連携をとりながら、支援を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/disclosure/education/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	長崎純心大学
設置者名	学校法人 純心女子学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

	前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）	213人	215人	218人
内 訳	第Ⅰ区分	109人	115人
	第Ⅱ区分	56人	50人
	第Ⅲ区分	36人	31人
家計急変による支援対象者（年間）			0人
合計（年間）			218人
(備考) 支援区分外・前半期12人・後半期19人			

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	-人	人	人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	-人	人	人
「警告」の区分に 連続して該当	-人	人	人
計	11人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
年間	-人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	20人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	20人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。